

展示室 1 イギリスの油彩画



ウィリアム・ホガース
《サミュエル・マーティンの肖像》

18 世紀、イギリスでは、貴族社会を象徴するかのよう肖像画が盛んに描かれていました。その一方、風景が四季によって様々な表情を見せるため、風景画も独自に発展しています。そのようなイギリスは、西洋画において日本と非常に深い関係があります。幕末に横浜で西洋画を日本人に教えたのはイギリス人で、日本人が西洋画を学ぶために選んだ最初の留学先はイギリスでした。

今回は、日本とイギリスとの関係を示すひとつの例として、来日したイギリス人画家から、イギリスならではの伝統的肖像画と風景画、そして 19 世紀末を彩ったラファエル前派周辺の画家たちの油彩画をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
チャールズ・ワーグマン	西洋紳士スケッチの図	1870 代	油彩・スケッチボード
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	日光の茶屋	1890	油彩・板
サー・アルフレッド・イースト	九月の陽光		油彩・キャンバス
サー・アルフレッド・イースト	スウェル川のほとり		油彩・キャンバス 佐藤克也氏寄贈
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758 - 60 頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1759 - 67 頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790 代初頭	油彩・キャンバス
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	テダム谷	1802	油彩・紙、キャンバス
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745 - 46 頃	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868 - 84	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ	1914 頃	油彩・キャンバス

展示室 2 近代洋画の少女像



白瀧幾之助
《編物をする少女》

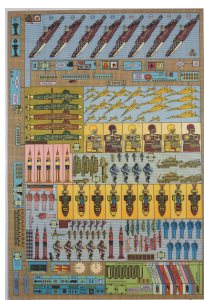
“少女”という概念が定着したのは明治時代以降とされています。近代的な学校制度の整備によって女学生という身分が生まれ、出版文化の発達によって少女雑誌文化が花開いたことを背景に、可愛らしい装いやしぐさといった“少女らしさ”が社会に浸透していきます。

少女がもつ柔らかな肌や髪質感、豊かな表情やしぐさは多くの画家を惹きつけてきました。今回は明治から昭和の洋画に描かれた少女像を展覧します。私たち鑑賞者を見つめる姿、何かに興じる様子、どこか遠くへのまなざし…少女と画家の個性が織りなす様々な少女像から、その魅力を感じてみてください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
原撫松	鯉を見る少女		水彩・紙 原優子氏寄贈
浅井忠	少女の顔	1878 (明治 11)	木炭・紙
伊藤快彦	子供像		油彩・キャンバス
原撫松	日本髪的女性肖像	1910 (明治 43) 頃	油彩・キャンバス
白瀧幾之助	編物をする少女	1895 (明治 28)	油彩・キャンバス
有島生馬	少女	1908 (明治 41)	油彩・キャンバス
原撫松	婦人像	1906-7 (明治 39 - 40) 頃	油彩・キャンバス
原撫松	婦人像	1906-7 (明治 39 - 40)	水彩・紙
南薫造	窓辺に立つ子供		鉛筆・紙
南薫造	少女		水彩・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
南薫造	日没		水彩・紙	
岸田劉生	丹絵ごのみ・麗子		木版・紙	
岸田劉生	葵の像	1915 (大正 4)	インク・紙	
岸田劉生	照子像	1920 (大正 9)	水彩・紙	
中澤弘光	舞妓ノ一	1944 (昭和 19)	油彩・キャンバス	
中澤弘光	灯 (加茂川夕涼)	1914 (大正 3)	油彩・キャンバス	
中山巍	赤ジレ座婦	1927 (昭和 2)	油彩・キャンバス	
中川紀元	赤い下着	1920 (大正 9)	油彩・キャンバス	(株) 興新産業寄贈
内田巖	首飾りの女	1937 (昭和 12) 頃	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
古茂田守介	少女	1949 (昭和 24)	油彩・キャンバス	武田光司コレクション寄贈
青津清喜	窓際	1950 (昭和 25)	油彩・キャンバス	
三宅克己	渋谷村天現寺附近の茶店	1893 (明治 26)	水彩・紙	
丸山晚霞	少女のいる風景、春		水彩・紙	
中西利雄	婦人像		鉛筆・紙	
野田英夫	座る女	1935 (昭和 10)	インク・紙	武田光司コレクション寄贈
野田英夫	少女像	1937 (昭和 12) 頃	鉛筆・紙	武田光司コレクション寄贈
安井曾太郎	少女と大このはづく	1939 (昭和 14)	リトグラフ・紙	
斎藤清	落苺る乙女	1946 (昭和 21)	木版・紙	
斎藤清	漁村の女	1946 (昭和 21)	木版・紙	

展示室3 イギリス、現代美術の魅力



サー・エデュアルド・パオロツィ
『零エネルギー実験電池』Vol.1

イギリスでは第二次世界大戦後、現代美術が目覚ましく発展しました。画家ニコルソンやその妻であり彫刻家のヘップワースらが戦前から抽象美術を牽引していましたが、1950年頃、抽象美術への関心がイギリスで再燃しました。その中心となった画家がパスモアです。彼は1948年、抽象画家に転向し、幾何学的な形を用いながら、色彩豊かで抒情的な絵画を制作しました。

1950年代後半から、ポップ・アートがイギリス美術の主流となります。その主導的存在がパオロツィとハミルトンです。彼らの作品には、大衆文化や商業文化の世相が反映されています。

ポップ・アートは、60年代以降、コールフィールドらによって引き継がれていきます。コールフィールドは、ポップ・アートに抽象を結びつけることに成功しました。ここでは、戦後、豊かな展開をみせるイギリス美術の魅力をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
ティム・バーバラ・ヘップワース	石柱 (バヴァーヌ)	1953	油彩・パネル	
ティム・バーバラ・ヘップワース	ふたつのフォルム、青	1958	油彩・ボード	
サー・エデュアルド・パオロツィ	『零エネルギー実験電池』Vol.1 (全6点)	1970	リトグラフ、シルクスクリーン・アクリル/ポートフォリオ	
サー・エデュアルド・パオロツィ	『ムーンストリップス・エンパイア・ニュース』Vol.1	1967	シルクスクリーン・紙 (一部アセテート) /ポートフォリオ	
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピースB	1976	リトグラフ・紙	
ヴィクター・パスモア	ワイン・レッド (version 1)	1964	レリーフペインティング・パネル	
ケネス・アーミティジ	無題	1972	シルクスクリーン・紙	カサハラ画廊寄贈
ベン・ニコルソン	ワン・イン・ワン	1978	ミクストメディア・メゾナイト	
ベン・ニコルソン	水差しと楕円形	1973	オイルウォッシュ、鉛筆・紙、木製ボード	
ウィリアム・スコット	静物II	1957	水彩、コラージュ・紙	カサハラ画廊寄贈
ウィリアム・スコット	ホワイトボウルとブラックパン	1970	シルクスクリーン・紙	カサハラ画廊寄贈
ウィリアム・スコット	水さしの詩 No.14	1980	油彩・キャンバス	カサハラ画廊寄贈
パトリック・コールフィールド	『ジュール・ラフォルグの詩 (A版)』(6点組)	1973	シルクスクリーン・紙	
アラン・グリーン	18コの白と50コの黒	1990	エッチング、アクアチント・紙	
アラン・グリーン	ドローイング 336	1995	ミクストメディア・紙	
アラン・グリーン	ドローイング 339	1995	ミクストメディア・紙	
デイヴィッド・ホックニー	『六つのグリム童話 (C版)』(6点組)	1969-70	エッチング、アクアチント、ドライポイント・紙/ポートフォリオ	

展示室4 イギリス版画の技法と表現



ポール・サンドビー
《カーナーヴォン城》

一言に版画といっても、使う素材や道具、制作過程は多様で、それぞれの技法による効果が作品を特徴づけています。木や金属の板を直接彫る方法のほかに、酸による腐蝕を利用して彫る方法、水と油の反発し合う性質を利用したものなど、技法が違えば作品に表れる効果も異なります。それぞれの特性を活かし、ひとつの作品に複数の技法を組み合わせる表現しているものもあります。作者と作品の間に存在する技法に触れ、どのような過程を経てひとつの作品が完成するのかを知ることは、版画作品を味わううえでとても重要な意味を持っているといえるでしょう。

今回は、イギリス版画において古くから使われている様々な技法に着目して展示します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
【エングレーヴィング】			
トマス・ガーティン	『リンカーン州の名所風景』		ライン・エングレーヴィング/本
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	『ロジャースのイタリア』	1829-30	ライン・エングレーヴィング/本
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ハーメルン城	1833	ライン・エングレーヴィング
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	シナイ砂漠	1834	ライン・エングレーヴィング
【メゾチント】			
トマス・ガーティン	ウォーフ川沿いのボルトン修道院	1825	メゾチント
ジョン・コンスタブル	ウェイマス湾	1830	メゾチント
ジョン・コンスタブル	ブライトン付近の穀物畑	1834-4頃	メゾチント
【ドライポイント】			
サー・フランシス・セイモア・ヘイドン	ウィンドミル・ヒル No.2	1877以後	ドライポイント
デイヴィッド・ヤング・カメロン	シエナ	1900	エッチング、ドライポイント
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	休息するフランス軍	1916	ドライポイント
グレアム・サザーランド	リトル・ハンプトンII	1923	ドライポイント
【エッチング】			
ジョン・クローム	枯れた榎の木沿いの道	1813頃	エッチング
サミュエル・パーマー	囲いを開く（早朝）	1880	エッチング
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	聖ピアッジョ	1880	エッチング
【ソフトグランドエッチング】			
ジョン・クローム	木々の習作：3本の幹	1810頃	ソフトグランドエッチング
ジョン・セル・コットマン	イエア川の辺、ノーフォーク		ソフトグランドエッチング
サミュエル・プラウト	テイマー川沿い	1814	ソフトグランドエッチング
【アクアチント】			
トマス・ガーティン	テュイルリーの眺め		エッチング、アクアチント
ポール・サンドビー	カーナーヴォン城	1776	アクアチント、エッチング
ポール・サンドビー	ペムブローク城	1774	エッチング、アクアチント
【リトグラフ】			
リチャード・パークス・ボニントン	ヴェルノンの古文書保管塔		リトグラフ
ジェームズ・ウォード	アドニス	1823-4	リトグラフ
クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン	『航空機製作の六場面』より「部品組立」	1917	リトグラフ
ポール・ナッシュ	夜間行軍	1918	リトグラフ
【木口木版】			
トマス・ビューイック	『イソップ寓話集』	1818	木口木版/本
リュシアン・ピサロ	C. ペロー『眠れる美女と赤ずきん』	1899	木口木版/本
ロバート・ギピングス	L. ポウイス『生命の栄光』	1934	木口木版/本
エリック・ギル	『十字架の道』	1917	木口木版/本
エリック・ギル	『コモン・キャロル・ブック』	1926	木口木版/本

展示室 4 楽しい造形



クリストファー・ドレッサー
《スプーン・ウォーマー》

芸術作品のなかには美しいだけでなく、どこことなくユーモラスで心を和ませるものがあります。今回は立体作品のなかからそんな作品にスポットをあててみました。

クリストファー・ドレッサーの「クラレットジャグ」や「スプーン・ウォーマー」の脚、さらには「スプーン・ウォーマー」の口に注目してください。まさに脚（足）に口。デザイナーの遊び心あふれる造形です。

佐藤潤四郎のふたつの「一寸（ちょっと）考えて」は器体の頸（くび）が少し傾き、胴の中心あたりに窪みが見えます。首をかしげてほったに手をあてているように見えませんか。

そのほかにも、顔のように見える作品、雷様のような作品などなど「楽しい造形」がそろっています。ぜひお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
佐藤潤四郎	花器・何をしようか	1986 (昭和 61)	ガラス/宙吹き
佐藤潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス/宙吹き
佐藤潤四郎	花器・ちょっと考えて (樹)		ガラス/宙吹き・グラヴェール
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹き・カット、エッチング
佐藤潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹き
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹き・グラヴェール、プランツ
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹き・プランツ
佐藤潤四郎	オブジェ・これ以上芽の出ない世界	1980-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹き
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984 (昭和 59)	放射能遮蔽ガラス/サンドブラスト
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス/宙吹き・サンドブラスト
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器 (顔)	1986 (昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器・灯もつけて	1986 (昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込
佐藤潤四郎	スタンドグラス・窠		ガラス、鉄
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 2		陶器
吉田丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス/宙吹き
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ (ぶどう酒用容器)		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢単型花瓶	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花模様瓢単形壺	1892-95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	橋型二重注口人面壺	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	刻文舟形容器	1892-95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	水差し「ラクダの背」	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック (青海波)		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック		金属、電気メッキ

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
● 1 階			
細川宗英	装飾古墳シリーズ 9	1963 (昭和 38)	セメント
笠置季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
● 2 階展示ロビー			
高田博厚	アラン像	1932 (昭和 7)	ブロンズ
舟越保武	少女	1956 (昭和 31)	砂岩
堀内正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄、セメント
植木茂	体		木
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 1		陶器
佐藤潤四郎	石で仏足跡		石
● 前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ